

コロナ禍における団体活動アンケート

結果報告

令和 2 年 8 月 12 日

前橋市市民活動支援センター

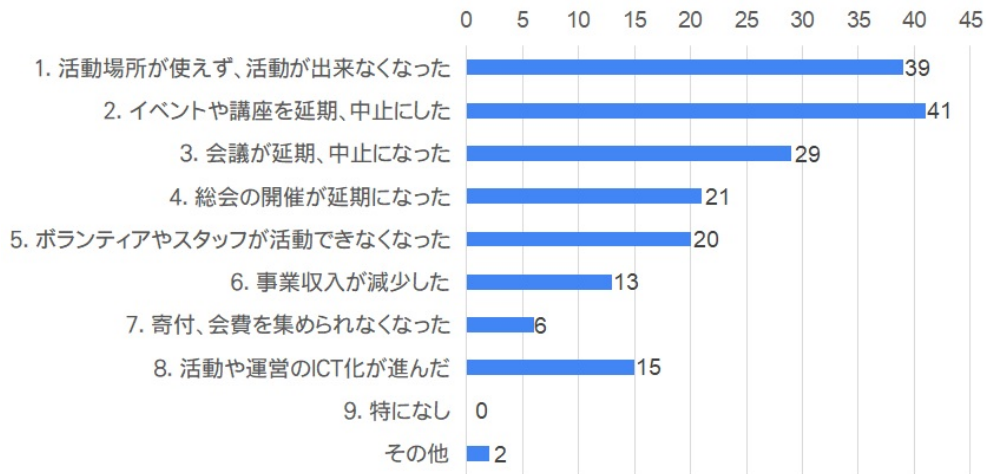
コロナ禍における団体活動アンケート結果報告

【調査概要】

- (1) 目的 新型コロナウイルスの感染拡大予防、及び「新しい生活様式」への対応が、市民活動団体（NPO法人・一般社団法人など非営利団体、ボランティアグループなど任意団体）にとって、どのように影響があるのかを明らかにし、この調査の結果を今後の市民活動支援に活かすために実施。
- (2) 実施期間 令和2年6月10日～7月15日
- (3) 対象者 Mサポ利用登録団体及び市民活動団体
- (4) 回答方法 アンケート用紙への記入による回答及びWEBによる回答
- (5) 回答数 48
- ※回答数内訳
- | | |
|-------------------|----|
| ・窓口（回答用紙） | 12 |
| ・WEB（Google フォーム） | 23 |
| ・FAX | 13 |
- (6) 実施主体 前橋市市民活動支援センター（Mサポ）

【回答結果】

Q 1. 新型コロナウイルスで、どのような影響がありましたか？（複数回答可）

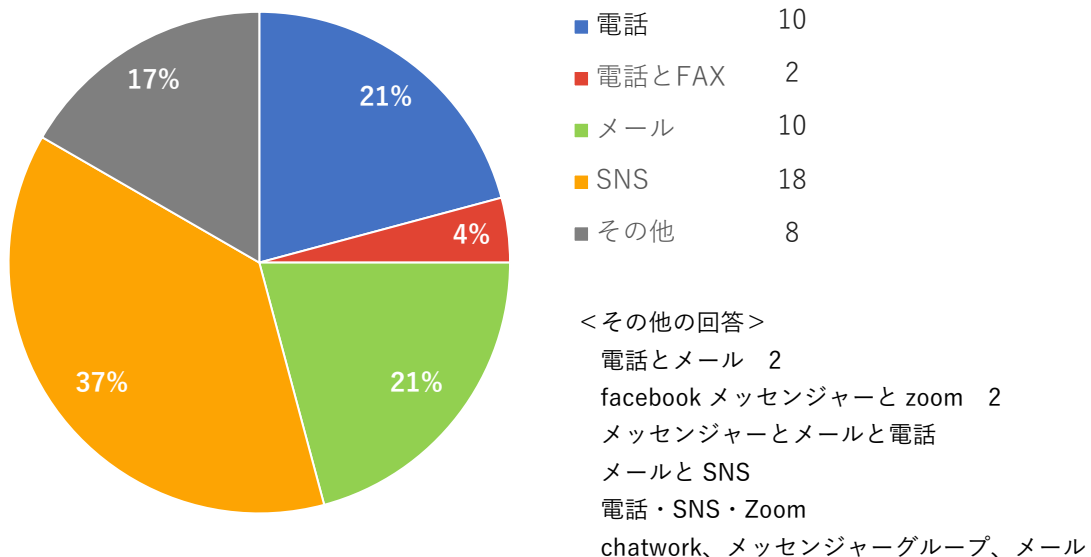


<その他の回答>

- ・ 60 歳以上の方は参加を見合わせてもらっている
- ・ 業務見直しができた

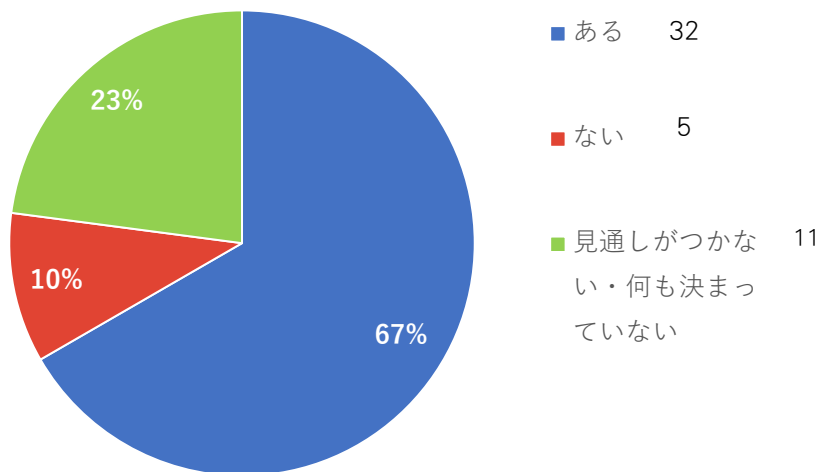
特に影響が多かったのは、会場の使用の制限に起因するものでした。緊急事態宣言下では、公共施設の利用が休止され、開催を断念せざるを得ない団体や、自粛を判断する団体等、活動を見合わせている様子が窺えます。

Q 2. 現在の団体内での主な情報共有の方法を教えてください。



コロナ禍で、組織内の情報共有するためには、SNSなどの機能を活用できることが、活動を継続するうえでも重要になる点だと推察しました。この回答から見ると、LINEの利用が多いこと、メールや様々なSNSの利用がわかりましたが、電話のみの連絡も多いことも確認できました。

Q 3. あなたの団体が今後計画しているイベント、活動はありますか？



66.7%の団体が、今後のイベント、活動についての計画があることがわかり、積極的に活動を行う様子が見受けられると同時に、今後の見通しがつかずにいる団体の活動の継続への不安も伺えます。

Q 4. どのようなイベント、活動を計画していますか？また、実施される場合の工夫があれば教えてください

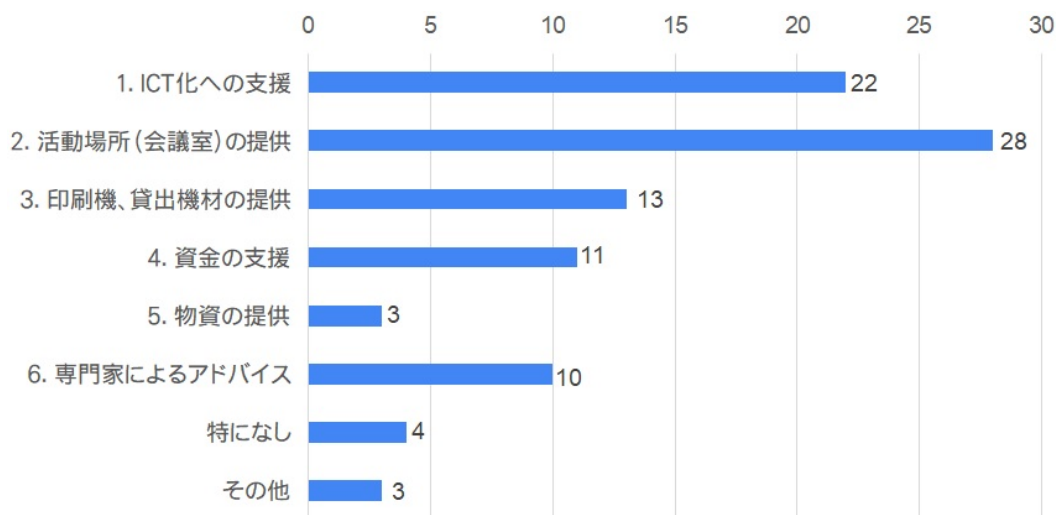
- ・7/13(月)から、出来る範囲内の練習を再開したい、と、考えている
- ・6/19(金) 定例会議を開催したいと、考えている。新しい生活様式の遵守
- ・セミナーを開催。開催時には、オンラインでの参加を可能にし、会場への参加人数は、ソーシャルディスタンスに配慮する
- ・ランチと食品配布
- ・LINE ブログ、Instagram、Facebook で、動画配信
- ・マイクロバスで他県へ遠征
- ・類似団体との連携活動
- ・会の活動の情報発信の IT 化の推進、計画の立案中
- ・乳幼児親子教室以外に小学生の為の親子教室を開催する予定。マスク着用、消毒の徹底をする子育てサロンを Zoom 開催
- ・人数制限して講座を開催 2
- ・3密回避で小規模実施。zoom 使用
- ・子育てサロンを Zoom を使って開催
- ・秋のぼうフェスタが開催される場合のガイド
- ・ガイドを行うにはどうしても3密になってしまう、ソーシャルディスタンスを保ちながらのガイドが可能か否か？
- ・清掃活動、広報活動など
- ・音楽家によるリサイタル、その他
- ・納涼祭、敬老会、前橋まつり協賛行事を予定しているが中止。但し、敬老会は対象者全員に記念品やギフト券を贈呈する
- ・LINE を活用した 10 代の LGBT 相談
- ・外出できないママたちのオンライン座談会を新規計画。クラス開催は zoom を使いオンライン授業に切り替え
- ・年間事業計画の中にある年 3 回の研修会を開催することができるよう計画を立てたり、個人でできるポラを集めて、福祉作業所にお送りしたりできるとよいと計画中です
- ・8月に500名を集めてスカイランタンを上げる事業を予定。群テレで放送
- ・三密回避かつ屋外活動を計画中
- ・「天川地区こどもまつり」 コロナ対策
- ・講座、映画会を予定しています。県・市のガイダンスに従って実施する
- ・野外での自然観察会等 (NO 密と、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用で行う)
- ・講座学習、旅行、合唱、カラオケ、パークゴルフ 2
- ・群馬県秋季古希野球大会、前橋市長杯野球大会 各選手の検温実施

緊急事態宣言が解除され、群馬県では「社会経済活動再開に向けたガイドライン」が策定されました。「新しい生活様式」に基づき、どの団体も事業を実施する様子がありました。開催内容の変更や、類似の団体との連携開催などもありましたが、同時に、不透明な状況で、実施方法に悩む団体の声もありました。

Q 5. 差し支えなければ、イベント、活動を実施できなかった理由を教えてください

- ・ 3密になるので実施できない 4
- ・ 会議等が出来ず延期又は中止に 5
- ・ コロナの影響でイベント等中止 2
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため 6
- ・ 外出自粛で、それぞれの家族に高齢者や病気の人がいて感染を避ける為に集まるのを中止せざるを得なかった
- ・ 集客に問題があるため
- ・ コンサート会場が密になってしまうため
- ・ 不測の事態によって、講座を休講することになりました。講師の解説と朗読を聴いて頂き、受講生も朗読の成果を発表して参りましたので、会場に集まったの活動が不能となった場合は、休講せざるを得ませんでした。公民館などの利用休止
- ・ イベントが中止になったり会場が使えなかったり自粛要請により自粛したりと様々な理由です
- ・ 病気の会であり、免疫を落とす治療をしている患者さんもいるのでリスクが大きいため、コロナ禍ではリアルでの会合ができなかった
- ・ 子どもたちを集めてのイベントだから

Q 6. 今後の活動において特に必要な支援についてあてはまるものを選択してください（複数回答可）

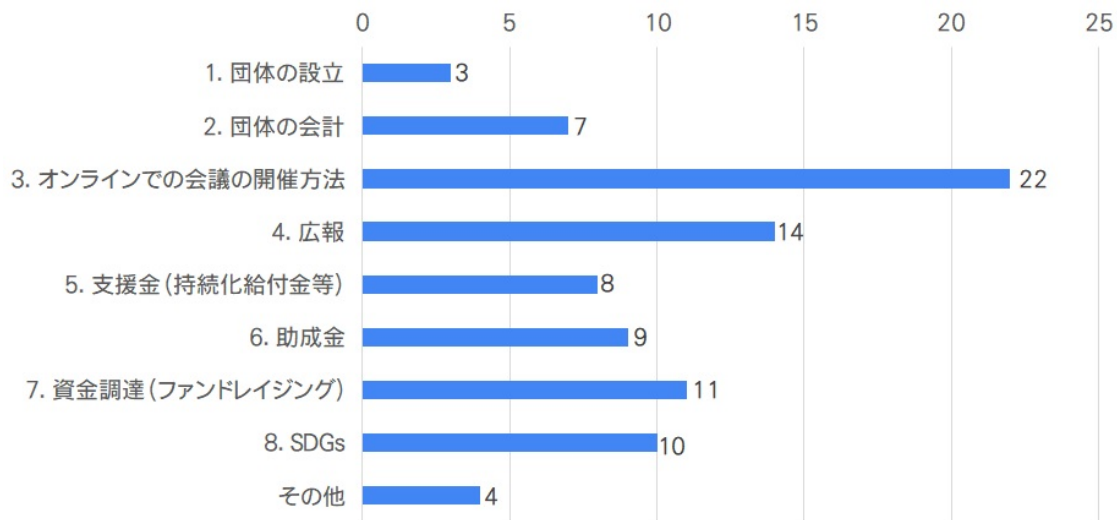


<その他の回答>

- ・ 若者の参加、効果的な広告、実行委員募集
- ・ イベントに呼ばれること
- ・ 一般のママたちへの告知と zoom の使い方のお知らせが必要

会場利用への要望が最も多くありました。アンケートの開始時に、緊急事態宣言解除後で、既に多くの公共施設も開放していましたが、利用のガイドラインがあり、活動によっては、会場の使用が出来ない場合も生じています。次いで、48.9%が、オンライン導入の支援とありが、これについては、早急に対応していかなければならないと思っています。しかし、そのスキルもさまざまなので、細やかな対応がどこまでできるかが支援者にとっての課題になります。資金・物資の支援についても必要であると結果が出ています。

Q 7. 今後、Mサポでオンラインセミナーを開催した場合、希望するテーマを教えてください(複数回答可)



<その他の回答>

- ・LGBTQ、人権、自殺防止、いじめ防止、団体に必要なルール、若手会員募集方法
- ・高齢者がオンライン会議に参加できるようになる講座、とパソコン等での支援
- ・パソコンは使っていますがオンラインの使い方がよく解らないので、基礎から希望です
- ・オーバーヘッドプロジェクターの使用方法

「オンラインでの会議の開催方法」は 53.7%と要望が高く、セミナー開催の必要性を感じました。

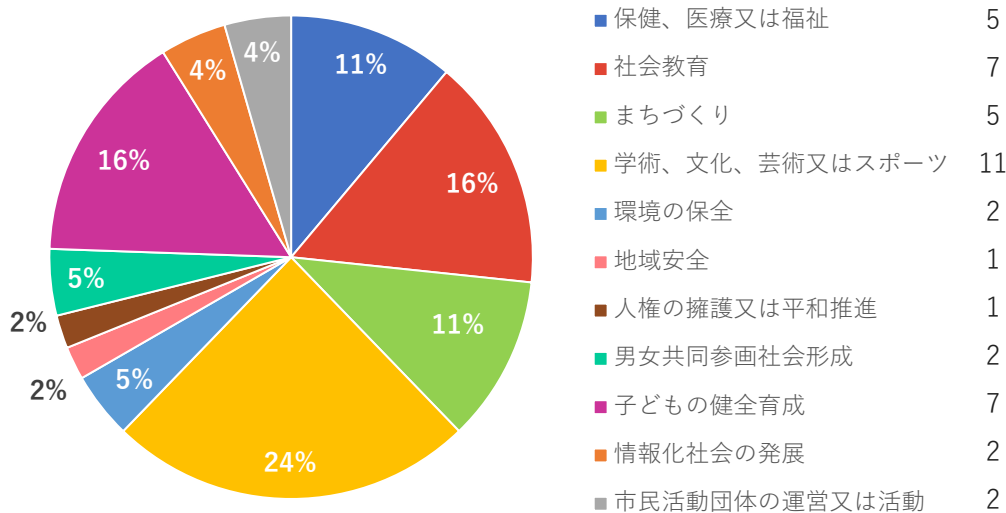
Q 8. 今後の活動において、団体内での課題はありますか？

- ・新しい生活様式を踏まえての、活動のあり方を模索中 4
- ・運営費（ニーズの高まり、参加者数に比例し運営費が倍増）若い世代の参加募集、仕事の偏り
- ・状況の変化の見通しが定まらず、長期計画が困難
- ・会員、支援者、連携先の拡大
- ・どこかでバルーンアートしたい。三密になるから難しいこと
- ・動画を作成する技術の向上
- ・メールやオンライン会議のできない高齢者対策
- ・メンバーの高齢化、減少、技術の継承化
- ・団体活動の活性化、その前提の集団活動、情報の提供活動
- ・広報やMサポニュース フェイスブックを活用したいので、毎月の活動予定などを取りあげてください
- ・オンラインの普及
- ・共に「ふれあい」ながら「関わり」「つながって」いくことを大切にしてきたので、新しい生活様式の中で「ふれあう」ということをどのように捉えていったらよいのか
- ・自分達がやっている事を、無理の無い範囲でいかにして小さな活動で良いから繋げて社会貢献するか？
- ・ガイドの高齢化
- ・演奏活動が出来ない。芸術家達の収入がない
- ・コンサートの準備をしても、また開催できなくなる恐れがあることを念頭におかなければならないこと
- ・活動メンバーの区分について、正会員、賛助会員、ボランティア（有償/無償）、会費や有償ボランティアについて他団体がどのように分けているか。区分による積極性の違いなど
- ・役員や各種委員の成り手がいない

- ・メンバー不足。募集活動が足りない
- ・集客をともなう事業をどう行うか？（いつから、対策費等）
- ・後継者の育成
- ・人員不足、資金不足
- ・公民館のホールの定員などの改正により参加できる人が少なくなったこと
- ・全体会などができなくなったこと
- ・コロナ禍では zoom 等の web を利用してのミーティングやリモート交流会は必須になってくると思うが、役員も高齢化していて やってる意欲がないメンバーもいる。また対象となる会員やその他の患者さんでも web を使える人と使えない（ネット環境なども含めて）がいるため開催が難しい
- ・コロナ感染が終息の方向へ向かえば、通常の大会運営が行われます

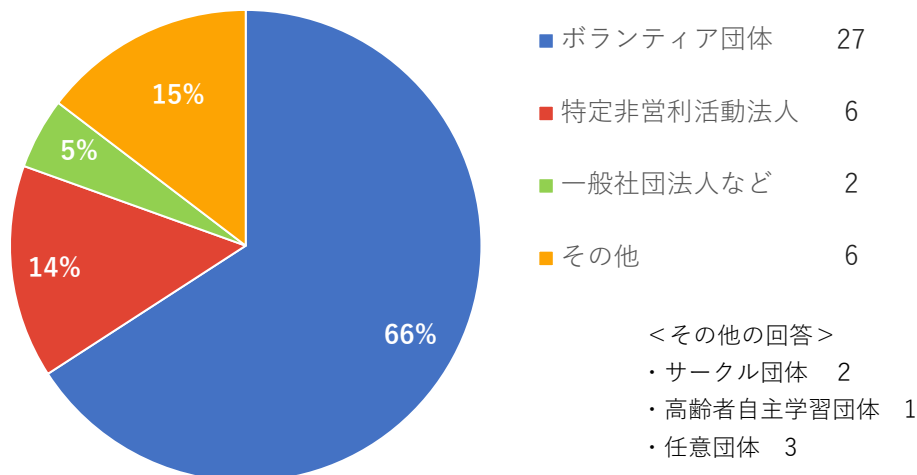
「新しい生活様式」に対応した活動をどのように実施していくかが課題となっていますが、状況の変化に対応する計画をされている団体、また、本来の組織の課題も回答のなかに見られました。

Q 9. あなたの団体の活動分野（主な活動を1つ選択してください）



活動分野については、さまざまな活動分野の方からの回答をいただきました。

Q 10. あなたの団体の種別



ボランティア団体が 64.3%と最も多く、次いで NPO 法人と続いています。

【アンケートの結果から】

アンケートの回答は、Mサポ登録団体及び前橋市内で活動するNPO・市民活動団体としましたが、主に前橋市市民活動支援センター（以下Mサポ）登録団体からの回答だと思われます。

今回のアンケートは、緊急事態宣言の解除後、群馬県では「社会経済活動再開に向けたガイドライン」が策定され、公共施設も6月から「新しい生活様式」を取り入れながら、徐々に利用を再開した時期に行いました。例年であれば、多くの団体が総会を終え、新年度の事業をスタートする時期でもありますが、今年度は、「新しい生活様式」を取り入れた活動への対応に迫られている様子がアンケートの結果からわかります。

また、活動についての会場の利用方法、事業内容も含め、活動場所としての『会場』については、多くの団体が課題としているところでした。特定の活動分野では、その活動場所を得られないのが現状です。会場の利用については、Mサポへの直接の問い合わせも多くあり、そのニーズも改めて実感しました。さらに、今回、資金・物資に関して、困窮している状況は30%超あり、資金や物資の不足による活動の縮小が懸念されます。

Mサポが実施できる支援として、オンライン対応へのきめ細やかな支援、「新しい生活様式」に対応した事業実施の提案や事例の紹介、資金の支援の情報発信などを考えています。継続的にサポートをしながら、活動団体の皆様とともに、長期にわたるコロナ禍を乗り越えたいと考えております。

最後に、ご協力いただいた皆様には貴重なご意見をいただき、感謝とお礼を申し上げます。